

薬学部授業概要索引

6 学年

科目名		開講時期	単位数		対象 クラス	科目担当者	掲載 ページ	備考	
			必修	選択					
専門 教育 科目	薬学 専門 科目	医療統計学	前1	1		6P全	熊本 隆之	414・415	
		社会薬学総論	前1	1		6P全	志村 紀子	416・417	
		薬学演習Ⅵ	前・後	6		6P全	学年主任他	418・419	
		卒業研究 前・後	前・後	8		6P全	講師以上の 教員	420・421	
	薬学 アド バンス ト科目	臨床治験コーディネーター総論	前1		1	6P全	橋本ひろ美	422・423	6年生までのアドバンスト科目より9単位以上を選択必修
		教育の理論と技法	前1		1	6P全	中野 浩一	424・425	
		臨床心理学	前1		1	6P全	竹ヶ原靖子	426・427	
		センサー概論	前1		1	6P全	柏木 良友	428・429	
		科学コミュニケーション演習	前1		0.5	6P全	熊本 隆之	430・431	
		法医学概論	前1		1	6P全	阿部すみ子	432・433	
		地域医療概論	前1		1	6P全	佐藤亜希子	434・435	
		新薬概論	前1		1	6P全	西屋・佐藤(栄) 守屋・関	436・437	
	英語文献講読	随時		1	6P全	伊藤 頼位 他	398・399		
	配当単位計				16				

授業科目名	医療統計学	薬理-10	6年 前期1
授業区分	専門教育科目（薬学専門）	必修	1単位
担当教員	准教授：熊本隆之		

1. 科目の概要

薬剤師はチーム医療を推進して行く上で、薬物治療の有用性、安全性の評価は、医療統計学の知識を必要とし、科学的根拠に基づいた臨床判断を提供することにある。臨床論文を正しく評価しまた、臨床研究を進めていくためには、検定方法やアウトカム評価を正しく理解しておかなければならない。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

医薬品・化学物質等の作用や性状、生体および環境への影響に関する科学的な根拠を理解・分析し、発信できる十分な知識と能力を身に付けることを目標としており、ディプロマ・ポリシー3に関連する。

3. 関連する科目

「統計学」,「医薬品情報評価学」,「公衆衛生学Ⅰ」など

4. 一般目標

研究の遂行および評価を行う上でデータ解析を適切な統計処理で解析出来る能力を身につける。また、臨床論文などの研究内容について、正しい方法論で正しく統計処理されているか、科学的根拠に基づいた批判的吟味を身につける。

5. 到達目標

- (1) 医歯薬関連論文や研究計画書の記載事項を読み取ることができる。
- (2) エビデンスに基づき適切な治療や対処法が選択できる能力を身に付ける。
- (3) 統計ソフトウェアの利用や出力結果を解釈する能力を身に付ける。
- (4) 正しい検定方法を身に付ける。
- (5) 解析データの属性や対応のあり、なしの解釈を身に付ける。

6. 授業時間外の学習

予習：テキストの該当箇所をよく読んで不明な点等を把握した上で、授業に臨むこと。(20分)

復習：テキストの問題を解き、理解を深めておくこと。(30分)

7. 評価・フィードバックの方法

定期試験の成績（100％）で評価する。定期試験の解答例を試験終了後に掲示する。

8. 教科書・参考書

教科書：教員作成テキスト「医療統計学」

参考書：井上俊夫ら：わかりやすい薬学系の統計学入門 第2版 講談社加納克己：医学統計学 南江堂

9. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者	
1	生物統計 (1) 「講義」	E3-(1)-⑤ -1,3	データの記述と要約統計量,分布 (1)	熊本隆之
2	生物統計 (2) 「講義」	E3-(1)-⑤ -1,3	データの記述と要約統計量,分布 (2)	熊本隆之
3	生物統計 (3) 「講義」	E3-(1)-⑤-2	帰無仮説と有意差, 過誤 (1)	熊本隆之
4	生物統計 (4) 「講義」	E3-(1)-⑤-2	帰無仮説と有意差, 過誤 (2)	熊本隆之
5	生物統計 (5) 「講義」	E3-(1)-⑤-4	パラメトリックとノンパラメトリック	熊本隆之
6	生物統計 (6) 「講義」	E3-(1)-⑤-5	統計解析法: 二群比較, 多群比較, 2値データ比較 (1)	熊本隆之
7	生物統計 (7) 「講義」	E3-(1)-⑤-5	統計解析法: 二群比較, 多群比較, 2値データ比較 (2)	熊本隆之
8	生物統計 (8) 「講義」	E3-(1)-⑤-5	統計解析法: 二群比較, 多群比較, 2値データ比較 (3)	熊本隆之
9	生物統計 (9) 「講義」	E3-(1)-⑤-6	回帰分析, 多変量解析	熊本隆之
10	生物統計 (10) 「講義」	E3-(1)-⑤-7	生存時間解析法	熊本隆之
11	有効性・安全性解析 (1)	E3-(1)-⑥-5	区間推定	熊本隆之
12	有効性・安全性解析 (2) 「講義」	E3-(1)-⑥-5	優越性試験と非劣性試験	熊本隆之
13	有効性・安全性解析 (3) 「講義」	E3-(1)-⑥-6 ~9	研究デザイン, エンドポイント (1)	熊本隆之
14	有効性・安全性解析 (4) 「講義」	E3-(1)-⑥-6 ~9	研究デザイン, エンドポイント (2)	熊本隆之
15	医療統計学 「講義」		医療統計学の総まとめ	熊本隆之
16	定期試験			熊本隆之

授業科目名	社会薬学総論	臨床-1-4	6年 前期1
授業区分	専門教育科目（薬学専門）	必修	1単位
担当教員	教授：志村紀子		

1. 科目の概要

薬学部学生にとって、薬事関係法規の知識を習得することは、薬剤師として社会で活躍するために必須である。薬剤師業務は薬事関係制度の中で実施され、薬事関係法規によって具体的な規制がなされる。本科目においては、憲法と薬事関係法規との関係に始まり、医薬品医療機器等法における医薬品等の定義、規制対象、薬局開設、医薬品等の製造販売業等、医薬品の承認審査システムや市販後調査制度、医薬品副作用被害救済制度について学び、薬事行政の仕組みについて学ぶ。さらに、麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締法、毒物劇物取締法など、管理薬についての法令や薬剤師法における薬剤師の資格、任務及びその業務について、また、医療法の中での薬剤師の任務について学び、社会における薬剤師活動に必要な基本知識を習得する。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

薬剤師や医療に関する法令を学ぶことにより、医療人として保健、福祉、健康増進に寄与し、また医療チームの中での薬剤師の仕事を認識することを目標とし、ディプロマ・ポリシー2及び6に関連する。

3. 関連する科目

薬事関係法規

4. 一般目標

社会において薬剤師が果たすべき責任、義務等を正しく理解できるようになるために、薬学を取り巻く法律、制度、経済及び薬局業務に関する基本的知識を習得する。患者の権利を考え、責任をもって医療に参画できるようになるために、医薬品医療機器等法、薬剤師法などの医療及び薬事関係法規、制度の精神とその施行に関する基本的知識を修得し、それらを遵守する態度を身に付ける。

5. 到達目標

- ①薬剤師に関連する法令の構成を説明する。
- ②医薬品医療機器等法の重要な項目を列挙し、その内容を説明する。
- ③医薬品副作用被害救済制度について説明する。
- ④管理薬として規制される医薬品についてその法令の内容を説明する。
- ⑤薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明する。
- ⑥医療法のうちの薬剤師関連部分について、その内容を説明する。

6. 授業時間外の学習

講義終了の際に、次回の内容を案内するので、その範囲の教科書を熟読して臨むこと。わからない用語などはできる限り調べておくこと。(所要時間30分程度) また、復習を30分程度行い、疑問点がある場合は、次回の講義で質問を受け付け回答する。

7. 評価・フィードバックの方法

定期試験 100%

定期試験の解答例は試験終了後、掲示又は配布する。

8. 教科書・参考書

教科書：2024-2025年度版 薬事関係法規・制度 解説（薬事衛生研究会 編 薬事日報社）

参考書：2024 薬事衛生六法（薬事日報社）、薬事ハンドブック 2024（株じほう）

9. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)	授業内容	担当者	
1	法・責任 「講義」	B-(2)-① -1,7,8	薬剤師に関わる法令とその構成 民事責任, 刑事責任, 個人情報	志村紀子
2	医事関係法規 (1) 「講義」	B-(2)-① -2,3,4	薬剤師法, 医師法	志村紀子
3	医事関係法規 (2) 「講義」	B-(2)-① -5,6	医療法, 医療従事者数, 医療施設数, 薬局数	志村紀子
4	薬事関係法規 (1) 「講義」	B-(2)-②-1	医薬品医療機器等法(目的, 規制対象物, 定義)	志村紀子
5	薬事関係法規 (2) 「講義」	B-(2)-②-6	医薬品医療機器等法 (薬局)	志村紀子
6	薬事関係法規 (3) 「講義」	B-(2)-②-6	医薬品医療機器等法 (医薬品販売業, 医療機器販売業)	志村紀子
7	薬事関係法規 (4) 「講義」	B-(2)-②-4	医薬品医療機器等法 (医薬品製造販売業, 製造業)	志村紀子
8	薬事関係法規 (5) 「講義」	B-(2)-②-2	医薬品医療機器等法 (医薬品等の承認, 承認審査システム)	志村紀子
9	医薬品開発 (1) 「講義」	B-(2)-② -2,3	非臨床試験, G L P, 治験, G C P	志村紀子
10	医薬品開発 (2) 「講義」	B-(2)-②-7	規範 (G M P, G V P, G Q P, G P S P)	志村紀子
11	薬事関係法規 (6) 「講義」	B-(2)-② -5,10	薬害, 市販後調査制度 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構法	志村紀子
12	薬事関係法規 (7) 「講義」	B-(2)-③ -1,2,3	特別な管理を要する薬物等に係る法規範 (麻 薬及び向精神薬取締法, 覚せい剤取締法等)	志村紀子
13	総括			志村紀子

授業科目名	薬学演習Ⅵ	総合-1-6	6年 前・後
授業区分	専門教育科目（薬学専門）	必修	6単位
担当教員	学年主任 専門教育科目指導教員		

1. 科目の概要

薬剤師として必要な自発的かつ継続的な自己研鑽力を身につけるためには、6年次までに学習したすべての薬学専門科目に関する知識を再確認し、統合的に体系化付ける必要がある。本演習では、今までに学んだ薬学専門科目全般について、演習中心の講義を実施し、練習問題を通して解答を導くまでの客観的かつ論理的な思考能力を養うと共に、薬剤師として求められる基本的な知識を確実に習得する。また、本科目の一部は病院薬局あるいは保険薬局で実務経験のある教員が担当する。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、6年次までの薬学専門科目および薬学応用科目全般にわたって総復習し、薬剤師として身につけておくべき知識を確実に習得することを目標としており、ディプロマ・ポリシー3、4および5に関連する。

3. 関連する科目

本科目は、1～6年次に履修した全ての専門科目に関する基礎的知識と関連する。基礎と臨床の知見を相互に関連付けて授業を行う。

4. 一般目標

本演習を通して、各領域教科の断片的な知識を互いに科目の垣根を越えて関連付け、統合された知識として理解を深め、習得し、改訂薬学教育コアカリキュラムに記載されている薬剤師として身に付けているべき知識を確実に身に付け、自己研鑽に励むことを目的とする。

5. 到達目標

- 1) 演習講義の中で理解できないことが生じた場合には、教員に積極的に質問できる。
- 2) 勉強計画は目標を高く掲げ、根気よく努力し、必ずやり遂げることができる。

6. 授業時間外の学習

講義範囲と担当教員を前もって掲示するので、講義前にその範囲の予習を参考書等を用いて必ず行うこと。(30分)
 講義では、担当教員による重要事項の説明と問題演習を行う。復習は必ずその日のうちに行うこと。(30分)
 復習では、授業のポイントを自分なりに再整理した上で、薬剤師国家試験参考書等の練習問題を繰り返し解くことにより、知識を定着させること。

7. 評価・フィードバックの方法

試験を3回（中間、一次、二次試験）行い、3回の結果と確認試験を総合的に判断して合否を決定する。原則として得点率65%以上を合格とする。試験の解答解説書を試験終了後に配布する。

8. 教科書・参考書

教科書：各領域科目使用教科書

参考書：薬剤師国家試験対策参考書（薬学ゼミナール編）

9. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1 96	前期日程 6月18日～7月25日 火水木の1, 2, 3限 「演習」	物理, 化学, 生物, 衛生, 薬理, 薬剤, 病態・薬物治療, 実務, 法規・制度・倫理の各領域について総復習する。 必須問題から理論問題対策に対応した演習と講義(解説)を実施する。	学年主任 専門教育科目 指導教員
97 180	後期日程 9月10日～11月28日 火水木の1, 2, 3限 「演習」	物理, 化学, 生物, 衛生, 薬理, 薬剤, 病態・薬物治療, 実務, 法規・制度・倫理の各領域について総復習する。 理論問題から複合問題対策に対応した演習と講義(解説)を実施する。	学年主任 専門教育科目 指導教員
181	8月中旬 薬学演習Ⅵ試験(中間試験)	薬剤師国家試験の出題基準に準拠して出題	学年主任 専門教育科目 指導教員
182	11月中旬 薬学演習Ⅵ試験(一次試験)	薬剤師国家試験の出題基準に準拠して出題	学年主任 専門教育科目 指導教員
183	12月中旬 薬学演習Ⅵ試験(二次試験)	薬剤師国家試験の出題基準に準拠して出題	学年主任 専門教育科目 指導教員

授業科目名	卒業研究 前・後	総合-3	4～6年 前・後期
授業区分	専門教育科目（薬学専門）	必修	8.0単位
担当教員	教授：押尾，柏木，小池，西屋，佐藤（栄），中川，伊藤（鍛），佐久間，守屋，石山，鈴木（康），志村，関，三宅，高野，須藤，高橋，櫻井 准教授：古泉，伊藤（頼），佐藤（亜），木田，渡邊，村田，西村，小野，熊本，大原 講師：杉野，金原，小田中，吉田，竹ヶ原		

1. 科目の概要

研究課題を通して，薬学の知識を総合的に理解して，科学的根拠に基づいて問題発見・解決する態度及びプロセスを修得する。このことは将来薬剤師となる者が生涯にわたり高め続けるべきものである。該当する全ての学生は，それぞれの将来の進路と興味に基づき，講師以上の卒業研究担当教員から出される研究課題を選択し，指導を受けつつ，自らの力で課題を達成する知識，技能，態度を修得する。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は，薬学の知識を総合的に理解し，科学的根拠に基づいて問題を発見・解決する態度とそのプロセスを習得し，生涯にわたって主体的学習を継続する態度を醸成することを目的としており，ディプロマ・ポリシー6に関連する。

3. 関連する科目

- 1) 研究マインドをもって生涯にわたり医療に貢献するために，薬学における研究の位置づけを理解する。
- 2) 自らが実施する研究に係る法令，指針を理解し，それらを遵守して研究に取り組む。
- 3) 研究のプロセスを通して，知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。

4. 一般目標

- 1) 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。
- 2) 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。
- 3) 現象を客観的に捉える観察眼をもち，論理的に思考できる。
- 4) 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。
- 5) 自らが実施する研究に係る法令，指針について概説できる。
- 6) 研究の実施，患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。
- 7) 正義性，社会性，誠実性に配慮し，法規範を遵守して研究に取り組む。
- 8) 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し，読解，評価できる。
- 9) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し，研究計画を立案する。
- 10) 研究計画に沿って，意欲的に研究を実施できる。
- 11) 研究の各プロセスを適切に記録し，結果を考察する。
- 12) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い，適切な質疑応答ができる。
- 13) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。

5. 到達目標

各担当教員及び評価委員が，課題に対する成果（70%）や課題に取り組む姿勢・態度（30%）をもとに評価する。なお，全学生は，成果を発表したうえで所定の報告書にまとめ，担当教員に期日まで提出する。

授業科目名	臨床治験コーディネーター総論	アド-11	6年 前期1
授業区分	専門教育科目（薬学アドバンスト）	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：橋本ひろ美		

1. 科目の概要

本科目は、病院薬剤師および治験コーディネーターの実務経験を有する者が担当する。臨床研究（治験）コーディネーター（Clinical Research Coordinator, CRC）は、臨床現場（医療機関）で創薬を支援する役割を担っている。

医師ならびにコメディカル（薬剤師、看護師、臨床検査技師等）は、日々臨床業務が多忙であり、治験や臨床研究のデータ収集を専任で担うことは困難である。そのため、CRCには医師やコメディカルを支援し治験および臨床研究のデータ収集を行う役割が求められる。

なかでも治験は患者へ未承認薬を投与するため、GCPを遵守し患者の人権と安全を確保しながら科学的な質が高いデータ収集を行う必要がある。創薬の最終段階である治験は、被験者の安全管理（副作用を含む有害事象の発現管理）が重要であるため、前臨床試験および第1相試験以降の臨床試験データの読解力を有する薬剤師が治験実施に関与することは薬剤師の責務を果たすことに繋がる。

本講義では、CRCの役割に関する幅広い理解を進めるため、治験に関する全般的な基礎的知識、GCPを遵守し臨床現場で治験を実施するCRCの具体的な業務内容と役割、インフォームドコンセントの重要性等を学び、治験および臨床研究全般に通じる基礎知識を修得する。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、薬の専門家である薬剤師として最低限取得しておくべき「創薬に関する知識」を取得することを目標としており、ディプロマ・ポリシー2, 4, 5に関連する。

3. 関連する科目

「医療薬学総論」、「社会薬学総論」、「薬事関係法規」、「医療倫理Ⅰ・Ⅱ」など

4. 一般目標

治験におけるCRCの役割は、コーディネーター役として治験に参加する被験者（創薬ボランティアとなる患者）を精神的にケアしながら、治験担当医師や治験に関わるコメディカルへのサポート、治験依頼者のモニタリングや監査への対応、当局の実地調査への対応支援など多岐にわたる。そこで、CRCの役割を具体的な業務内容として学び、CRCが治験や臨床研究を行う臨床現場で果たすために必要な知識や行動を修得する。

5. 到達目標

- 1) 臨床研究と治験の違いについて説明できる。
 - 2) 医薬品の開発における段階（相）を説明できる。
 - 3) 臨床研究（医学研究）における倫理を学び、治験におけるインフォームドコンセントの重要性を理解し、ヘルシンキ宣言を遵守した患者への同意説明と患者からの自由意思にもとづく同意取得が重要であることを説明できる。
 - 4) GCPと医薬品医療機器法との関係、GCPの説明ができる。
 - 5) 治験審査委員会（倫理委員会）の役割を説明できる。
 - 6) 治験における有害事象と副作用の違いを説明できる。
- 1) から6)：独自目標

6. 授業時間外の学習

予習：事前に配布する講義資料をもとに授業内容に関連したキーワード（不明な用語等）について、WEB検索や参考図書をもとに調べ理解しておく（30分程度）。

復習：講義3回目以降では、前回の講義最後に出題された小テストへの自己回答の正誤を考え、回答の根拠ならびに不明な点について講義資料を読み返し不明点を解消しておく。解消できない場合は、次回講義で質問できるよう自分でまとめておく。（30分程度）。

7. 評価・フィードバックの方法

定期試験（80%）＋講義終了後小テスト（20%）

- ・小テストは、2回目、4回目、6回目、8回目、10回目、12回目、14回目の講義後に実施する。回答は小テスト実施の次回講義時に配布し、講義冒頭で小テストの回答内容を詳細に説明する。
- ・定期試験・解答例は試験終了後に掲示または配布する。

8. 教科書・参考書

教科書：講義用テキストの配布（講義開始前に、講義毎に使用する講義用テキストを提供する）

参考書：・日本臨床薬理学会編「CRC テキストブック 第4版」（日本臨床薬理学会認定CRCのための研修ガイドライン準拠）医学書院、
・亀山周二監修「CRCのための治験業務マニュアル 第3版」（株）じほう、
・石橋寿子著「臨床で役立つ治験のいろは」メディカ出版

9. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」（記号）	授業内容	担当者
1 2	医薬品開発について、試験デザイン・国際共同治験について、CRC業務内容の概略 「講義」「小テスト（2回目の講義後）」	B-(2)-②-2 B-(2)-②-3 製薬業界における医薬品開発の現状について理解する 新薬の開発の流れ（創薬と育薬と開発相）を理解する CRC業務の概略を理解する 本講義キーワード：前臨床試験、治験（第1相試験、臨床薬理試験、第2相試験、探索試験、第3相試験、検証試験）、製造販売後臨床試験、治験におけるデジタル化、稀少疾患治療薬	橋本ひろ美
3 4	臨床研究の歴史と倫理観について 「講義」「小テスト（4回目の講義後）」	B-(2)-②-2 A-(2)-④-1 A-(2)-②-1 臨床研究の歴史と倫理規範（ヘルシンキ宣言等）を学びGCPを遵守する必要性を理解する 本講義キーワード：ニュルンベルグ綱領、ベルモント・レポート、ヘルシンキ宣言、GCP、ICH	橋本ひろ美
5 6	治験の実施体制について 「講義」「小テスト（6回目の講義後）」	B-(2)-②-3 B-(2)-②-4 治験に関わる機関・スタッフについて学ぶ CROやSMOについて理解する 本講義キーワード：治験依頼者、治験実施医療機関、治験責任医師、治験協力者、CRC、被験者、PMDA、SMO、CRO	橋本ひろ美
7 8	CRCの役割と業務（1） 「講義」「小テスト（8回目の講義後）」	B-(2)-②-3 B-(2)-②-4 治験開始前のCRCが行う各種作業について理解する 治験実施計画書・治験概説書に記載される内容を理解する 本講義キーワード：治験実施計画書、治験薬概要書、主要評価項目、副次評価項目、治験スケジュール	橋本ひろ美
9 10	CRCの役割と業務（2） 「講義」「小テスト（10回目の講義後）」	B-(2)-②-3 B-(2)-②-4 治験実施中、治験終了後のCRC業務について理解する 治験実施中に発生する有害事象（AE）、重篤な有害事象（SAE）、被験者とのコミュニケーション時の注意点、補償と賠償、直接閲覧（SDV）、実地調査対応などを理解する 本講義キーワード：有害事象（AE）、重篤な有害事象（SAE）、モニタリング、直接閲覧（SDV）、健康被害補償	橋本ひろ美
11 12	インフォームドコンセント 「講義」「演習」「小テスト（12回目の講義後）」	B-(2)-②-3 A-(2)-③-3 A-(2)-③-1 インフォームドコンセントについて理解する 可能な場合は、ロールプレイングを実施し、同意説明時の注意点を理解する 本講義キーワード：インフォームドコンセント、同意説明文書、文書同意取得、ヘルシンキ宣言	橋本ひろ美
13 14	CRC業務各種の演習 「演習（1）」「小テスト（14回目の講義後）」	B-(2)-②-3 治験にかかわる各種書類（症例報告書等含む）の作成を通じて理解を深める 本講義のキーワード：症例報告書（CRF）、EDC、ワークシート、規定Visit、治験データ収集	橋本ひろ美
15 16	15回目：CRC業務演習（2） 16回目：定期試験	15回目：B-(2)-②-3 15回目：CRC業務演習（2）治験実施の各種条件について学ぶ 本講義のキーワード：症例報告書（CRF）、EDC、ワークシート、規定Visit、治験データ収集、併用禁止薬 16回目：定期試験	橋本ひろ美

授業科目名	教育の理論と技法	アド-12	6年 前期1
授業区分	専門教育科目（薬学アドバンスト）	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：中野浩一		

1. 科目の概要

薬剤師とは、医師の処方箋に基づき、単に医薬品を交付するのが役割と、世間一般では考えられたりする。しかし、実際には、薬学の知識に基づき、患者に対して適切な指導を行い、薬物治療の目的に沿った習慣形成のみならず、薬物の専門家として、医師を指導する立場にもある。

この指導するという技術は、薬剤師だけでなく、全ての人間が必要とするものであり、これまで数多くの「教育の理論と技法」が考案されてきた。

それらを見ると、人間は知識を与えても行動しない場合があるため、良心・意志の育成やそれを実行する身体の育成が必要と考えられている。この授業では、効果的な指導方法とはどのようなものか、について理解できるようになることを目的とする。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、患者や他の医療人と円滑なコミュニケーションを取るために必要な教育的視点について理解を深めることを目的としており、ディプロマ・ポリシー2に関連する。また、次世代を担う人材を育成する指導者としての職務の基盤を形成するものであり、ディプロマ・ポリシー6に関連する。

3. 関連する科目

実務実習など、実務体験と関連付けて授業を行う。

4. 一般目標

薬剤師として指導的な立場に立つ際、適切な行動が取れるよう、教育の理論と技法に関する知識体系を学び、それを実践できるようにする。

5. 到達目標

- 1) 教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあるのかを理解できる。〔独自目標〕
- 2) これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解できる。〔独自目標〕
- 3) 教育の思想がどのように発展してきたのかを理解できる。〔独自目標〕

6. 授業時間外の学習

授業終了時に次のキーワードを伝えるので、それを調べて授業に臨むこと（40分）

7. 評価・フィードバックの方法

レポート：100%

8. 教科書・参考書

教科書：使用しない

参考書：使用しない

9. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	「教育」とは何か 「講義」	1. 教育の定義 2. 教育の目的	中野浩一
2	「教育」とは何か 「講義」	3. 教育の区分 4. その他の区分	中野浩一
3	日本に「学校」が誕生する以前 「講義」	1. 明治時代以前（日本と西洋）	中野浩一
4	日本に「学校」が誕生する以前 「講義」	2. 西洋の教育思想 3. コメニウス	中野浩一
5	明治維新による「学校」の誕生 「講義」	1. 「学校」の誕生 2. 「体育」の誕生	中野浩一
6	明治維新による「学校」の誕生 「講義」	3. 国家主義への移行 4. 教育勅語	中野浩一
7	西洋と東洋における身心観の相違 「講義」	1. 西洋の身心観 2. 東洋の身心観	中野浩一
8	西洋と東洋における身心観の相違 「講義」	3. 西洋と東洋の相違	中野浩一
9	教育の教育理論と技法 「講義」	1. ルソー 2. ペスタロッチ	中野浩一
10	教育の教育理論と技法 「講義」	3. 日本への影響（明治初期）	中野浩一
11	教育の教育理論と技法 「講義」	1. ヘルバルト 2. デューイ	中野浩一
12	教育の教育理論と技法 「講義」	3. 日本への影響（明治中期以降）	中野浩一
13	身体と教育との関係 「講義」	1. 「体育」とは何であったか	中野浩一
14	身体と教育との関係 「講義」	2. 学校における運動教科との関係	中野浩一
15	授業のまとめ 「講義」	レポートの作成	中野浩一

授業科目名	臨床心理学	アド-13	6年 前期 1
授業区分	専門教育科目（薬学アドバンスト）	選択	1単位
担当教員	竹ヶ原靖子		

1. 科目の概要

臨床心理学とは、精神疾患をはじめとする心の問題を抱える人やその周囲の人への理解や心理的援助を探究する分野である。近年はうつや発達障害の名称も広がり認知されるようになった一方で、未だ残る差別や偏見、誤解が支援の際に障害となることも少なくない。この講義では、臨床心理学の基礎的知識や支援法、現代社会における心の課題を取り扱っていく。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、人間理解の方法やストレスや精神的問題を抱えた人の支援にあたり、その人のもつ背景や現代社会の問題について理解し、医療従事者としての患者や家族に対する態度を考えることを目標としており、ディプロマ・ポリシー 1に関連する。

3. 関連する科目

心理学

4. 一般目標

相手の抱える心理的問題を理解し、様々な背景を抱える人々に対応するため臨床心理に関連した内容を習得する。

5. 到達目標

1. 主な心理アセスメントについて説明できる。
2. 主な心理的支援法について説明できる。
3. 代表的な精神疾患や障害について述べられる。
4. 現代社会における心の問題を述べられる。

6. 授業時間外の学習

予習：新聞やニュース等から臨床心理学や心の問題に関わる情報を取得しておく。(30分)

復習：講義内容において強調された部分を復習しておく。(30分)

7. 評価・フィードバックの方法

試験の成績 100% で評価する。

8. 教科書・参考書

教科書：なし

教員が作成した資料をもとに講義を進める。

参考書：なし

9. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1 2	オリエンテーション 「講義」	臨床心理学とは 心理職について	竹ヶ原靖子
3 4	支援のための見立て 「講義」	心理的アセスメント 心理検査	竹ヶ原靖子
5 6	支援法① 「講義」	精神分析 来談者中心療法 行動療法	竹ヶ原靖子
7 8	支援法② 「講義」	認知行動療法 家族療法 その他の支援法	竹ヶ原靖子
9 10	代表的な精神疾患・障害① 「講義」	うつ 統合失調症 適応障害	竹ヶ原靖子
11 12	代表的な精神疾患・障害② 「講義」	認知症 発達障害	竹ヶ原靖子
13 14	現代社会における様々な問題 「講義」	自殺 虐待 ハラスメント 災害時の心理的支援	竹ヶ原靖子
15 16	総括 定期試験		竹ヶ原靖子

授業科目名	センサー概論	アド-14	6年 前期1
授業区分	専門教育科目（薬学アドバンスト）	選択	1単位
担当教員	教授：柏木良友		

1. 科目の概要

センサーはガスセンサーや医療センサーとしても今や我々の日常生活に欠かせないものとなっている。この講義ではセンサーの基本的な原理を修得するとともに、特に電極反応が関与しているセンサーを中心にその仕組みを解説し、バイオメディカルデバイス分野における基礎・基本の修得を確実なものとする。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本授業は、センサーに関する基本的知識を身につけ、さらに疾患に進行度合を医療センサーで判断する方法を学ぶことを目的としており、ディプロマ・ポリシー3に関連する。

3. 関連する科目

「物理学Ⅰ」、「物理学Ⅱ」、「物理化学Ⅰ」、「物理化学Ⅱ」、「物理化学Ⅲ」、「基礎分析化学」、「薬品分析化学」、「臨床分析化学」、「機器分析化学」

4. 一般目標

機器を用いる先端的分析法の原理、その応用に関する基本知識を修得して、ガスセンサーや医療用センサーの仕組みについて説明できるようにする。

5. 到達目標

- 1) 電極反応について説明できる。〔独自目標〕
- 2) サイクリックボルタンメトリーについて説明できる。〔独自目標〕
- 3) パルス法、ステップ法の違いについて説明できる。〔独自目標〕
- 4) ステップ法について説明をできる。〔独自目標〕
- 5) ガスセンサーの仕組みについて説明できる。〔独自目標〕
- 6) ガスセンサーの応用について説明できる。〔独自目標〕
- 7) 酵素センサーの仕組みについて説明できる。〔独自目標〕
- 8) 免疫センサーの仕組みについて説明をできる。〔独自目標〕
- 9) イオンセンサーの仕組みについて説明できる。〔独自目標〕
- 10) バイオセンサー材料、作製法、検出法について説明できる。〔独自目標〕
- 11) 酵素・電気化学式血糖センサーシステムの仕組みについて説明できる。〔独自目標〕
- 12) デジタル尿糖計の開発について説明をできる。〔独自目標〕
- 13) 体内埋め込み型バイオセンサーの仕組みについて説明できる。〔独自目標〕
- 14) 医療福祉用フレキシブル電極・センサーの仕組みについて説明できる。〔独自目標〕

6. 授業時間外の学習

講義終了の際に、次回の内容について説明をします。関連する内容の物理化学および分析化学の教科書等に目を通して、講義前日にしっかりと予習

7. 評価・フィードバックの方法

レポート提出（100％）。
レポートは添削して個人へ返却する。

8. 教科書・参考書

教科書：配布プリント

参考書：「先進化学センサー」電気化学会 化学センサー研究会 編 株式会社ティー・アイ・シー

9. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1 2	電気化学分析法の基礎 「講義」	電極反応の基礎, サイクリックボルタンメトリー, パルス法, ステップ法	柏木良友
3 4	化学センサーと物理センサー 「講義」	ガスセンサーの基礎	柏木良友
5 6	化学センサーの基礎 「講義」	ガスセンサーの応用	柏木良友
7 8	バイオセンサー (1) 「講義」	酵素センサー, 免疫センサー, イオンセンサー	柏木良友
9 10	バイオセンサー (2) 「講義」	バイオセンサー材料, 作製法, 検出法	柏木良友
11 12	最近のバイオ分析法の進歩 (1) 「講義」	酵素・電気化学式血糖センサーシステム デジタル尿糖計の開発	柏木良友
13 14	最近のバイオ分析法の進歩 (2) 「講義」	体内埋め込み型バイオセンサー 医療福祉用フレキシブル電極・センサー	柏木良友
15 16	総まとめ 課題レポート作成		柏木良友

授業科目名	科学コミュニケーション演習	アド-15	6年 前期 1
授業区分	専門教育科目（薬学アドバンスト）	選択	0.5 単位
担当教員	准教授：熊本隆之		

1. 科目の概要

科学コミュニケーション（サイエンス・コミュニケーション）は専門家が非専門家に科学情報を伝えることであるが、単に情報を伝達するのではない。科学的な知識と考え方を有することを前提に、対象者の立場から何をどう伝えるか考え判断し、効果的に発信するいわゆる「インタープリテーション」の能力が必要であり、それには多くの技法がある。その技法と考え方は、最新の研究や先端技術に関するトピックスだけでなく、社会政策やリスクコミュニケーション、そして医療・健康情報の伝達に役立たせることができ、薬学領域でも大いに活用できる。

本演習では、現状と課題、考え方、技法を討議しながら学んだ上で各自（もしくは各グループ）の課題を実践することで科学コミュニケーション能力の涵養を目指す。本演習は、PBL、反転授業、ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーションを行うアクティブ・ラーニング型授業の形態をとる。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、修得した知識・技能・態度により新たな課題に向かい、また保健・医療・福祉分野等に貢献できるコミュニケーション能力の涵養を目標としており、ディプロマ・ポリシーの2、3に関連する。

3. 関連する科目

「臨床コミュニケーション演習」、 「医療コミュニケーション論」、 「サプリメント概論（健康食品概論）」 など

4. 一般目標

6年次までに得られた基礎的な科学力を有した上で科学コミュニケーションの技法を学び、市民に有益な情報を提供するコミュニケーション能力の涵養を行い、薬学教育モデル・コアカリキュラム「薬剤師として求められる基本的な資質」の形成を目指す。

5. 到達目標

〔いずれも独自目標〕

1. 科学技術の情報を的確に収集できる。
2. 相手が必要としている情報を認識し、適切に伝達できる。
3. リスク評価・リスク分析・リスクコミュニケーションについて説明できる。

6. 授業時間外の学習

本教科は調査と討議を目的としたものであり、原則的に授業時間内に行う。議論に用いるプリントは前もって配布するため、予習することが望ましい（20分程度）。また次のテーマに活かせるよう復習することが望ましい（20分程度）。

7. 評価・フィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート70%、授業態度30%。プレゼンテーション・レポートについては講評を行う。

8. 教科書・参考書

教科書：教員作成テキスト「科学コミュニケーション演習」

参考書：「科学コミュニケーション論新装版；東京大学科学技術インタープリター養成プログラム」
藤垣裕子ほか著 東京大学出版会

9. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1	科学コミュニケーション (1) 「講義・演習」	はじめに (概説・討議)	熊本隆之
2	科学コミュニケーション (2) 「講義・演習」	インタープリター的能力 (概説・討議)	熊本隆之
3	科学コミュニケーション (3) 「講義・演習」	先端技術と市民生活, 研究倫理 (概説・討議)	熊本隆之
4	科学コミュニケーション (4) 「講義・演習」	科学技術基本計画・科学技術白書 (概説・討議)	熊本隆之
5	科学コミュニケーション (5) 「講義・演習」	専門家と市民, メディアの関係性を考える (1) (概説・討議)	熊本隆之
6	科学コミュニケーション (6) 「講義・演習」	専門家と市民, メディアの関係性を考える (2) (概説・討議)	熊本隆之
7	科学コミュニケーション (7) 「講義・演習」	科学リテラシーと危害情報, 安全と安心のコミュニケーションを考える (1) (概説・討議)	熊本隆之
8	科学コミュニケーション (8) 「講義・演習」	科学リテラシーと危害情報, 安全と安心のコミュニケーションを考える (2) (概説・討議)	熊本隆之
9	科学コミュニケーション (9) 「講義・演習」	科学コミュニケーションの技法 (1) (概説・討議)	熊本隆之
10	科学コミュニケーション (10) 「講義・演習」	科学コミュニケーションの技法 (2) (概説・討議)	熊本隆之
11	科学コミュニケーション (11) 「講義・演習」	科学コミュニケーションの技法 (3) (概説・討議)	熊本隆之
12	科学コミュニケーション (12) 「講義・演習」	科学コミュニケーションの技法 (4) (概説・討議)	熊本隆之
13	プレゼンテーション (1) 「演習」	課題発表と討議	熊本隆之
14	プレゼンテーション (2) 「演習」	課題発表と討議	熊本隆之
15	科学コミュニケーション (13) 「講義・演習」	科学と社会の関わり, 公共理解と社会受容 (概説・討議)	熊本隆之

授業科目名	法医学概論	アド-16	6年 前期1
授業区分	専門教育科目（薬学アドバンスト）	選択	1単位
担当教員	非常勤講師：阿部すみ子		

1. 科目の概要

法医学は、応用医学における社会医学の一分野として位置づけられ、日本法医学会教育委員会によって、「医学的解明助言を必要とする法律上の案件、事項について、科学的で公正な医学的判断を下すことによって、個人の基本的人権の擁護、社会の安全、福祉の維持に寄与することを目的とする学問である。」と定められている。

近年薬剤師には、薬事衛生をつかさどることによる健康管理だけではなく、薬学の知識を応用して社会の必要性に応えるべく新たな役割も求められており、その1つに「法律上の案件、事項について、薬学の知識を応用した科学的で公正な医学的判断」がある。講義では、その一翼を担う法医学の基礎および臨床的内容について理解する。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、法律上の案件、事項について学ぶことで、法医学の基礎および臨床的内容について理解し、薬学の知識を応用して公正な医学的判断を下すことができるようになることを目標としており、ディプロマポリシー 1,3,6に関連する。

3. 関連する科目

「生物学 I」, 「分子生物学」, 「環境衛生学 II」, 「医療倫理 I・II」

4. 一般目標

社会に貢献できる薬剤師となるため、法医学の基礎的知識を身につけることにより、社会における薬剤師の役割と責任を理解する。

5. 到達目標

- 1) 法医学の基礎的知識とその応用方法を説明できる。
- 2) 社会における薬剤師の役割とその責任を説明できる。

6. 授業時間外の学習

予習：2回目以降は配布される次回講義内容の資料を参考にして予習を行う（30分程度）。

復習：講義後の小テストを参考にして要点を復習する（30分程度）。

7. 評価・フィードバックの方法

定期試験の成績（100%）により評価する。定期試験の解答例を試験終了時に掲示する。

8. 教科書・参考書

教科書：資料配布

参考書：New エッセンシャル法医学：高取健彦監修：医歯薬出版、臨床法医学テキスト：佐藤喜一編著：中外医学社

9. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」(記号)		授業内容	担当者
1 2	総論 「講義」		法医学の定義と歴史 法医学の業務と鑑定例	阿部すみ子
3 4	法中毒1 「講義」	E-3-1-(1) E-3-1-(7)	揮発性薬毒物・自然毒などによる中毒の機序 治療法と事例	阿部すみ子
5 6	法中毒2 「講義」	E-3-1-(4) E-3-1-(6)	金属毒・農薬などによる中毒の機序 治療法と事例	阿部すみ子
7 8	違法薬物 「講義」	E-3-1-(5) E-3-1-(8)	薬物乱用の種類・作用・規制法 罪と罰-判例	阿部すみ子
9 10	物体検査・血液型 「講義」		法医学における物体検査 血液型の有用性と検査方法	阿部すみ子
11 12	DNA型・親子鑑定 「講義」	C-6-2-(4)	法医学におけるDNA型の有用性と検査方法 親子鑑定の有用性と検査方法	阿部すみ子
13 14	医療過誤 「講義」	B-1-2-(7) B-1-3-(5)	医療過誤の原因と予防法 事例	阿部すみ子
15	医療機関の問題 「講義」	B-4-4-(1)	医療機関のかかえる問題	阿部すみ子
16	定期試験			阿部すみ子

授業科目名	地域医療概論	アド-19	6年 前期1
授業区分	専門教育科目（薬学アドバンスト）	選択	1単位
担当教員	准教授：佐藤亜希子		

1. 科目の概要

病院薬局あるいは保険薬局で実務経験のある教員が担当する科目である。

地域医療を統括する地域包括ケアシステムは、高齢者や慢性疾患を抱える方でも、病院に長期入院するのではなく、住み慣れた地域や自宅で療養を続け自分らしく暮らせる仕組みを整える「医療・介護・住まい・生活支援・予防」一体のケアシステムとなっている。当然ながら、薬剤師には医療だけでなく介護にもかわり、さらには保健・予防といった領域でもその専門性を発揮することが求められている。

本科目は、まず特別養護老人ホームの常勤医の講演を視聴することによって医師の視点を学び、その後、教科書をすべて網羅することで薬剤師として地域医療に必要な知識を学習する。さらに、模擬事例を2つ提示し、これらを反転授業でおこなうことによって薬剤師としての患者対応の課題解決に取り組む。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は地域医療における薬剤師の役割と薬剤師に必要な知識・スキルについて学習するものであり、ディプロマポリシーの5に関連する。

3. 関連する科目

一般教養科目：現代の社会福祉 B、高齢者の健康 A、高齢者の健康 B

4年次：在宅医療・介護論（必修）

5年次：実務実習（必修）

4. 一般目標

地域医療における薬剤師の役割と薬剤師に必要な知識を習得する。模擬事例を各自で取り組み、教員による解説講義を受けることで補足し、これら通じて問題解決能力を醸成する（反転授業）。

5. 到達目標

- 1) 在宅医療・介護と薬剤師職能のかかわりについて理解する。〔独自目標〕
- 2) 在宅医療・介護にかかわる薬剤師に必要なスキルについて列挙できる。〔独自目標〕
- 3) 地域保健における薬剤師の役割について説明できる。〔独自目標〕

6. 授業時間外の学習

予習：教科書をざっと読み、内容をつかんでおいてください。

講義中：補足説明を板書するので、その内容を教科書の空いているスペースに書きこんでください。

復習：その日の授業に関係する薬剤師国家試験の過去問題を授業終了後に配布するので、教科書などを見ながら解いて知識の定着を図ってください。

授業は板書中心でおこないます。模擬事例は、前もってプリントを配布しますので、自宅で行いながらから解説講義に臨んでください。なお、上記の国試過去問および模擬事例の配布プリントは、ユニバーサルパスポートにアップしておきますので、欠席者はダウンロードして活用してください。

7. 評価・フィードバックの方法

定期試験 100%、模範解答を試験終了後に掲示する。

8. 教科書・参考書

教科書：臨床薬学テキストシリーズ 薬学と社会 中山書店（2017年 初版）

教科書を使用して授業を進めますので、かならず購入してください。

参考書：なし

9. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1 2	患者の物語 「講義」	特別養護老人ホームの常勤医の講演を視聴し、患者に向き合う姿勢を学ぶ。	佐藤亜希子
3 4	医療と薬剤師, 社会保障制度と医療経済, 多職種協働と薬剤師 「講義」	教科書pp.2 ~ 52	佐藤亜希子
5 6	病院でのチーム医療と薬剤師の役割, 地 域医療・在宅医療と薬剤師の役割 (在宅 医療・介護①) 「講義」	教科書pp.53 ~ 132	佐藤亜希子
7 8	地域医療・在宅医療と薬剤師の役割 (在 宅医療・介護②, 在宅医療・介護にかか わる薬剤師に必要な知識とスキル①) 「講義」	教科書pp.133 ~ 215	佐藤亜希子
9 10	地域医療・在宅医療と薬剤師の役割 (在 宅医療・介護にかかわる薬剤師に必要な 知識とスキル②, 地域保健における薬剤 師の役割, 災害時の薬剤師の役割, 国際 貢献における薬剤師の役割) 「講義」	教科書pp.216 ~ 302 (ただし第4章3-3は除 く)	佐藤亜希子
11 12	模擬事例の解説 (1) 「講義」	患者対応の実践 模擬事例1 (国体選手)	佐藤亜希子
13 14	模擬事例の解説 (2) 「講義」	患者対応の実践 模擬事例2 (緊急避妊薬)	佐藤亜希子
15 16	授業の総まとめ 定期試験		佐藤亜希子

授業科目名	新薬概論	アド-18	6年 前期1
授業区分	専門教育科目（薬学アドバンスト）	選択	1単位
担当教員	教授：西屋 禎，佐藤栄作，守屋孝洋，関 健二郎		

1. 科目の概要

科学技術の進歩に伴って、わが国では毎年約 50 種類の新薬が発売されている。新しい薬理作用を持った化合物は、多くの非臨床試験や臨床試験を経て、その有用性が認められて初めて医薬品として発売される。新薬には、まったく新しい作用機序を持つもの、既存薬より有効性または安全性が高いもの、適応症を拡大したもの、新しい剤形としたものなどがある。新薬概論では、新医薬品の開発の流れ、および最近 6 年間に発売された主な医薬品の薬理作用、副作用、適応症や特徴について既存薬のそれらと比較しながら学習する。本科目は、精神神経系・循環器系・呼吸器系・内分泌系・感覚器・骨などの疾患および各種悪性腫瘍に関する臨床的知識と関連しており、基礎と臨床の知見を相互に関連付けて授業を行う。

2. 卒業認定・学位授与の方針との関連

本科目は、様々な疾患において今後主要な治療薬へとなりうる新開発の治療薬を学ぶことで、卒業後薬剤師として活躍するために必要な知識を修得することを目的としており、ディプロマ・ポリシー 3 に関連する。

3. 関連する科目

「薬理系 6・7・9・10～14」, 「処方解析学」, 「薬と病態チュートリアル 1～3」など。

4. 一般目標

主な新医薬品の開発に至った背景や特徴に関する知識を修得する。

5. 到達目標

- 1) 新規循環器系疾患および新規呼吸器系疾患治療薬の特徴を既存薬と比較して説明できる。
- 2) 新規ウイルス性肝炎治療薬の特徴を既存薬と比較して説明できる。
- 3) 新規代謝性疾患治療薬の特徴を既存薬と比較して説明できる。
- 4) 新規眼科疾患およびカルシウム・骨代謝疾患治療薬の特徴を既存薬と比較して説明できる。
- 5) 新規内分泌疾患薬の特徴を既存薬と比較して説明できる。
- 6) 新規中枢神経・精神疾患治療薬の特徴を既存薬と比較して説明できる。
- 7) 新規抗悪性腫瘍薬の特徴を既存薬と比較して説明できる。

6. 授業時間外の学習

必ず予習と復習をして下さい。

予 習: 配付プリントを良く読み、理解できなかったことをノートに書き留めて置いて下さい (30分)。

授業中: 予習で理解できなかったところを授業中理解し、それでも理解できなかったところは授業終了後教員に質問して下さい (分からないままに放置しないこと)。

復 習: 重要な語句や薬物名を復習ノートにまとめ、覚えて下さい。この復習作業は毎回行って下さい (30分)。

7. 評価・フィードバックの方法

- ・定期試験 100 点満点で評価する。
- ・試験終了後、速やかに模範解答例を教員居室の入り口に掲示、または C-Learning にて配信する。

8. 教科書・参考書

教科書：教員作成プリント

参考書：なし

9. 授業内容と日程

回	項目「授業方法」	授業内容	担当者
1 2	新規循環器系・呼吸器系疾患治療薬 「講義」	新規循環器系・呼吸器系疾患治療薬の特徴を既存薬と比較して説明できる。	佐藤栄作
3 4	新規ウイルス性肝炎治療薬 「講義」	新規ウイルス性肝炎治療薬の特徴を既存薬と比較して解説する。	西屋 禎
5 6	新規代謝性疾患治療薬 「講義」	新規代謝性疾患治療薬の特徴を既存薬と比較して解説する。	佐藤栄作
7 8	新規眼科疾患およびカルシウム・骨代謝疾患治療薬 「講義」	新規眼科疾患およびカルシウム・骨代謝疾患治療薬の特徴を既存薬と比較して解説する。	西屋 禎
9 10	新規内分泌疾患治療薬 「講義」	新規内分泌疾患治療薬の特徴を既存薬と比較して解説する。	守屋孝洋
11 12	新規中枢神経・精神疾患治療薬 「講義」	新規中枢神経・精神疾患治療薬の特徴を既存薬と比較して解説する。	関 健二郎
13 14	新規抗悪性腫瘍薬 「講義」	新規抗悪性腫瘍薬の特徴を既存薬と比較して解説する。	守屋孝洋
15	まとめ		西屋 禎 佐藤栄作 守屋孝洋 関 健二郎
16	試験		西屋 禎 佐藤栄作 守屋孝洋 関 健二郎